

冬場は外気温が下がる寒冷地や中山間地などで、子牛の死亡事故が起こりやすくなる。子牛は成牛に比べて脂肪

が少なく、寒さに弱い。冬本番を迎える前に低温から子牛を守る資材を紹介する。

# 冬場の低温から守る

子牛の寒冷対策には、カーテンやパネルで牛舎を囲んで保温する方法がある。ぬれた敷料で子牛の体を冷やさないように小まめに敷料を交換したり、子牛に与える代用乳や水を39℃40度程度に温めたりすることも一般的だが、資材を利用する農家も多い。

空調機器の販売や設置などを手がけるパナソニック環境エンジニアリング（大阪府吹田市）は、子牛用の暖房「カーボンヒーター NK-21CLA」を薦める。電気ですぐ温めるヒーター。石油ストーブと違って換気の必要がなく、安全性が高い。ヒーターは天井からつり下げて設置する。牛舎全体ではなく、子牛の体のそばで効率的に暖められるという。落下した場合は自動で

電源が落ち、事故を防ぐ。ヒーターから110センチ離れた位置での温度は17度ほど。遠赤外線を利用して温める。電源は三相200Vのコンセントから供給する。出力の強弱を切り替えられる。

畜舎のカーテンなどを販売する菱中産業（北海道帯広市）は、子牛の体をすっぽりと包むタイプの防寒着「カーフコート」を売り出している。子牛にジャケッ

トやコートを着せる対策は一般的だが、手作りのものを含めて首や腹周りを覆えないタイプが多い。

同社のカーフコートは襟と腹巻きが付いた形で、首を覆うためにネックウオーマーなどを子牛に別途着用させる必要もない。腹回りは子牛のふん尿がかからないように設計した。

コートは3層構造で内部にポリエステルを挟み、ダウンジャケットのような保温性を持つという。ライフジャケットにも採用されている生地を使い、軽量に仕上げた。速乾性で洗濯も可能。体の小さな双子用から離乳時期まで使えるSSSの4サイズを展開する。

## 資材ナビ

| メーカー       | パナソニック<br>環境エンジニアリング                                                              | 菱中産業                                                                              | オオツキ                                                                               |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 商品名        | カーボンヒーター<br>NK-21CLA                                                              | カーフコート                                                                            | あったか点滴                                                                             |
| 商品<br>イメージ |  |  |  |
| 価格         | オープン                                                                              | オープン                                                                              | 本体:2万7500円<br>(バッテリー、充電器は別売り)                                                      |
| ポイント       | つり下げ式の電気ヒーター。強・弱の切り替えができ、落下時には自動で電源が落ち安全性が高い                                      | 襟と腹巻き付きの防寒着。3層構造の中綿入りで保温性が高く、洗濯にも対応する                                             | 点滴の保温器。電熱線で点滴とチューブを温める。バッテリー1本で2時間30分稼働する                                          |
| 問い合わせ      | (電)0568(81)1162                                                                   | (電)0155(37)2217                                                                   | (電)0795(74)3972                                                                    |

疾病や下痢による脱水症状の際には、牛に点滴を打つ。だが、冷えた点滴は子牛の体温低下の原因になる。作業着やユニホームを販売するオオツキ（兵庫県丹波市）は今年、点滴の保温器「あったか点滴」を発売した。点滴を温めることで体温低下を防ぎ、点滴成分の吸収を早める効果も期待できるという。

電熱線が付いた専用の袋に、ボトルとチューブを入れて専用のバッテリーとなぎ、それぞれを温める仕組み。バッテリー式のため、屋外でも利用できる。袋には1つのボトルまで入り、裏面にはバッテリーが4個収納できる。バッテリー1本で温められるのは約2時間30分ほど。同社の実験では40度のボトルを保温器に入れ、氷点下1度の環境に設置した場合、30分経過しても35度以上を維持した。